

新委員長にきく

本年度、新たに二人の委員長が就任しました。そこで、本誌ではこのお二人に委員会に対する取り組み、常任理事としての思いなどをお聞きしました。



総務委員会 委員長
志水 功行 常任理事

——総務委員会の役割、仕事などについて教えてください。

会員である中小企業診断士の資格の維持にかかわる「理論政策更新研修」や「経営診断実務研修」の計画・運営、それに個々の会員の更新手続きに関する事務などがあります。また、協会全体の催し物として「社員総会」「新入会員歓迎会」なども運営の主体は総務委員会があたります。ほかに、普段の会員の様々な活動を「事務局」として支えているのも総務委員会の仕事です。

——それぞれの業務にはどのような方針で取り組んでいますか。

会員一人ひとりが「兵庫県でよかった」と感じていただける行き届いた運営に努めたいと考えています。例えば、「理論政策更新研修」では、実践に役立つ知見が得られるような内容や、会員の業務の幅、知識の幅が広がるような新鮮で使えるテーマなどを選ぶようにしています。また、社員総会に留まらず、広く会員の方からのご意見やご提案が受けられ、今後の協会運営に反映できるようなしくみを考えていきたいと思っています。

——事務局運営についてはいかがでしょう。

日ごろの活動を側面から支えている「事務局」の活動も総務委員会が担当する大切な仕事です。会員との水際の業務として、事務局は最前線に位置しますが、総務委員がいつでもサポートできる体制をとっており、会員のご要望やご意見には迅速に連携・対応できるよう努めています。

——そうした活動の中で、「新・総務委員長」として本年度はどのような重点方針をお持ちなのでしょう。

会員相互の交流は、総務委員会の活動の中でもとくに重要な課題であると考えています。普段、中小企業診断士として、どちらかというと一人で仕事をする人が多いのがこの資格の特徴の一つかと思っています。そういう時に、仲間が身近にいることはいろいろな意味で支えになったり、勉強になったりすることも多いと思います。総務委員会として、そうした仲間を見つける、絆を深める機会を少しでも増やしていきたいと考えています。

本年度は、例年実施しています「新年会」を、広く会員の方全員に呼びかける計画です。会員の皆様には、こうした交流会にぜひ積極的にご参加いただき、ネットワークを広げていただきたいと思っています。こうした機会を少しでも増やし、会員の皆様の活動が点から線に、線から面に拡大するようにしていく所存です。



会員研修委員会 委員長
伊藤 康雄 常任理事

——会員研修委員会とは、主にどのような役割、仕事を担っているのでしょうか。

当委員会の活動には、まず「スキルアップセミナー」や「日銀セミナー」などセミナーの企画・運営があります。これらのセミナーは当協会の会員向け開催していますが、会員以外の方にも参加いただけるものもあります。また、毎年実施しています「調査研究事業」に関しても、会員研修委員会が研究結果の活用を検討・提供するなど、いろいろな方向から会員の活動の支援を実施しています。

——委員会活動として、どのような点に重点をおいていますか。

特に、次の3点を心がけて活動するようにしています。一つめは会員の知的好奇心や成長意欲に応えられるセミナー等の提供です。二つめは企業や支援機関の信頼に応えられる中小企業診断士の育成に結びつく活動です。そして、三つめが会員相互の交流が深められる場の提供です。

——具体的には、どのようなことを行っているのでしょうか。

例えば、スキルアップセミナーについては、そのテーマ選びに関して会員である中小企業診断士のニーズが高いものをテーマとして採用しています。また、理論政策更新研修には、調査研究事業や研究会活動で得られた成果をテーマとして選定する場合があります。

——「企業や支援機関の信頼に応えられる中小企業診断士の育成」というテーマについてはどうでしょうか。

企業や支援機関との接点である受託開発委員会とは常に連携を密にして、具体的に求められている中小企業診断士というものを把握するようにしています。また、「今」というタイミングに即したセミナーのテーマ選び、例えば本年ですと「事業承継」といったものを積極的に採用するよう努めています。

——会員相互の交流、というテーマについてはいかがでしょう。

恒例となりました「Wassshoi(わっしょい)」は、特に企業内診断士の方に参加いただくイベントで、他の中小企業診断士との交流を広げられると、好評をいただいています。また、本年11月3日には、「中小企業診断士の日」のイベントを当協会主催として初開催する予定です。

法改正に対応したHACCP導入支援のスキーム

改正食品衛生法への対応は待たなし 求められるマネジメント構築の視点

平成29年度調査研究事業

平成29年度の調査研究事業は「中小・零細企業が法改正に対応した HACCP(ハサップ)を導入する際の効果的な支援スキームの調査研究」でした。すでに、報告会や理論政策更新研修の場で概要をご紹介してきました。ここでは、そうした場でご紹介しきれなかった内容をお伝えします。(調査研究事業メンバー：梶原陽二)

専門家と協力した中小企業診断士の支援のあり方

県内事業者数の13%を占める食品関連事業者に大きな影響を与える改正食品衛生法が6月13日公布された。新制度対応が中小企業支援の柱の一つとなると考え、支援スキーム構築を目的に昨年度、調査研究事業を実施した。事業ではマネジメント構築ノウハウなど中小企業診断士の知見が生かされることが明らかになった。

1. 法改正の背景と内容

食中毒事件は件数減少の下げ止まり、広域化事件の発生、また、食品表示違反を中心とした自主回収の増加など、食品安全をめぐる環境は必ずしも良好ではない。その要因として、HACCP方式による衛生管理の普及が欧米に比べて遅れていることが指摘されている。

そのため厚生労働省、農林水産省は平成26年ごろから食品衛生法改正の準備を進め、今年6月13日に改正食品衛生法が公布された。

改正内容は広範囲に及ぶが、ポイントは①HACCP方式による衛生管理を制度化する、②リコール事案はすべて当局への通知を義務化する、③法規制の対象とする営業許可業種を見直し新たに登録制も導入する、という点にある。施行時期は①は2020年までに、②③は2021年までに、とされている。

調査研究事業では特に影響が大きいHACCP方式による衛生管理構築支援スキームの作成を目的に進めた。

2. HACCP方式と基準A、基準B

HACCP方式とは、人の健康に被害を及ぼす可能性の

ある危険因子(危害要因=ハザード)を評価し、設定した管理基準をモニタリングすることで危害要因を排除した安全な食品を製造する方式である。管理基準逸脱があった場合には是正処置も求められる。全体としてPDCAに基づいた食品安全のためのマネジメントシステムである。国連機関の一つであるコーデックスが定めた導入手順が国際標準である。改正食品衛生法も原則、コーデックスHACCPを制度化することが規定された。

原則的なHACCP方式を構築するためには、微生物や食品製造に関連する化学物質などの専門的知識が必要なこと、製造(調理)品目が多く頻繁に変更となる場合には危害要因評価が非常に煩雑になること、などから小規模事業者(中小企業基本法にいう小規模事業者とは別)に適用することは多大な負担を強いることになる。コーデックスHACCPではこうした事業者への配慮も規定している。

改正食品衛生法では原則的なHACCP方式を「食品衛生上の危害を防止するために特に重要な工程を管理するための取り組み」と規定している。いわゆる基準Aである。

同時に政令で定める小規模な営業者等にとっては、「取り扱う食品の特性に応じた取り組み」を求めている。HACCPの考え方を取り入れた衛生管理でいわゆる基準Bである。

厚生労働省はHACCP導入のガイダンスを策定し、各事業者団体がこのガイドラインに従って導入の手引書を公表している。事業者はこの手引書を基に導入作業を進めていくことになる。8月現在、10業種の手引書がある。

3. 調査研究事業での導入支援

小規模事業者がHACCP導入に際して想定される障害は、①HACCP方式の理解や危害要因評価、②導入作業自体のマネジメント、③PDCAに基づく運用、が考えられた。①については技術的専門知識が必要でありFSMS（食品安全マネジメントシステム）審査員補で豊富な導入支援実績を持つメンバーが、また②③はメンバー全員が中小企業診断士の知見を活かした支援を実施することとした。

支援先には、アメリカへの輸出に際してHACCP確認書が必要であった有限会社相沢食産（福崎町）に協力を求め、福崎町商工会、福崎保健所の協力も得て支援作業を実施した。

相沢食産は従業員21名、工場を2カ所持つ納豆製造業者である。

支援は相沢食産の作業チーム5名、8月から12月にかけて合計5回のスケジュールで進めた。

HACCP構築作業で一番難解で手間のかかるフローダイアグラム作成、危害要因分析のステップではチームメンバーの議論が度々滞った。専門的知識が不足していたこともあるが、集団的な討議に慣れていないことが大きな要因であった。ここではファシリテーターとして中小企業診断士としての知見が活かされた。

2つの工場で用語が統一されていなかったり業務の標準化ができていなかったりしたことも問題となった。ここでも業務オペレーションや改善活動といった中小企業診断士の知見が役立った。この他、組織のあり方、ムダ・ムリな工程の洗い出しなど効率化にも結びつく改善点が浮き彫りになり、可能な部分から改善に着手するなど、食品安全マネジメントを構築することで経営全般のマネジメント向上にも結びつくことが明らかにされた。

支援を終え、当初の目的であったHACCP確認書の発行を得て相沢食産製納豆がアメリカに向けて輸出されている。

相沢勝也社長は「記録類の簡略化など生産効率向上にも繋がった。社内ミーティングでも衛生管理の提案が従業員から出るようになった」と効果を感じている。一方で「今後の運用の課題を具体的に示してもらいたかった」と不十分な点の指摘もいただいた。

協力をいただいた福崎町商工会経営支援課の吉澤幹夫課長からは「中小企業診断士協会などと連携して導入の必要性を事業者にも周知したい」と、また福崎保健所の

古根川陽子氏からも「中小企業診断士協会の引き続きの支援を期待したい」と、HACCP導入に対する中小企業診断士への期待が語られた。

4.HACCP導入支援スキーム

調査研究事業を通じて確認できた支援スキームは以下の通りである。

- ①可能な限り中小企業支援機関、保健所などと連携して支援にあたる。
- ②HACCP導入の基本方針、到達点を明確にする。
- ③設定した到達点とのギャップ分析により課題に優先順位を付ける。
- ④一般衛生管理の確立を特に重視する。
- ⑤複数ライン、複数カテゴリー商品がある場合には、習熟度合に応じて横展開をする。
- ⑥導入して終わりではなく、PDCAサイクルで継続的改善の動機付けを促す。

技術面の支援は中小企業診断士の知見を超えるが、プロジェクトマネジメント、業務改善の視点、ファシリテーター技術など、専門家との協力で効果的な支援が可能となることが明らかにされた。中小企業診断士の新たな活動分野となる可能性が十分にあるが、同時に食品安全の専門的知識が不可欠である点は留意したい。



調査研究の打ち合わせ風景

今年も国際フロンティア産業メッセに出展

去る9月7日、8日に、神戸国際展示場(神戸ポートアイランド)で国際フロンティア産業メッセが開かれ、中小企業診断士の知名度向上のために当協会もブースを出展した。4回目の出展となる今年は、当協会オリジナルのパネルを展示。会員からモデルを公募し、撮影、デザイン、キャッチコピーまで広報委員会メンバーが制作し、活動内容をアピールした。また、会期中に出展企業41社にインタビューし、当協会のFacebookページに発信した。当日の様子を写真で振り返る。



壁サイズと同じ大きさのパネルを制作、統一感を演出



会員14名が当協会のブース運営とインタビューに参加



協会Facebookで出展企業を紹介、ぜひ「いいね」とシェアを!

<https://www.facebook.com/shindanhg/>





「製造業の発注側ニーズとの齟齬を生まない中小企業の戦略」と題して、ものづくり&SCM研究会の三村光昭代表幹事がプレゼンテーション



インタビューとともに、中小企業診断士の活動をPR



出展企業にインタビューして魅力ある企業を発掘



同・好・会 活動だより

前号より、協会員が自主的に発足・活動している同好会の様子をお伝えしています。今回は、写真表現の技術向上をめざす写真同好会「KOBエフォト倶楽部」をご紹介します。

写真同好会「KOBエフォト倶楽部(仮称)」

【主な活動内容】

写真にはいろいろな楽しみ方がありますが、本会は「会員の写真表現技術の向上と、会員相互の親睦を図る」ことを目的として活動します。

会の魅力は、何と言っても撮影会です。ロケ地ならではの名所・旧跡を訪問し、景色もレンズを通して見ると違った趣を感じさせます。撮影後の懇親会では「次は何をテーマにするか」「どこで撮ろうか」「とっておきのスポット、時間帯は？」など、みんなでネタを披露したり調べたりと、和気あいあいの満ちた時を過ごします。

次の魅力は、撮影反省会です。写した写真データを持ち寄って、PCで編集しながら意見交換をして撮影技術を高めていくことです。日ごろ鍛えた腕前の披露、共通の趣味を持つ会員同士ならではの楽しい会話になります。

なお、会員には、仕事にも使える「魅力的なプロフィール写真」をお撮りしています。



活動の拠点「ギャラリー神戸銘木」

【お知らせ】

第1回研究会

お顔合わせも兼ねて写真技術研究から行います。手ぶらで参加も結構ですし、データを持参されても良いと思います。

その後近くで懇親会をします。

日時:10月13日(土)16時～

場所:「ギャラリー神戸銘木」(神戸銘木ビル1F)

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通1丁目4-21

神戸市営地下鉄 湊川公園駅 西口から徒歩3分、神戸高速鉄道 新開地駅 西口から徒歩7分



【会員募集】

当協会の協会員であれば、どなたでも参加できます。活動は不定期ですが、参加できる範囲で自由に参加してください。
代表:塔筋幸造 kozo@kmba.co.jp、連絡・幹事:稲葉晃 inaba@lightning.co.jp 090-8889-1636



私の駆け出し時代 ⑧

自分の仕事の存在価値はどこにあるのか

合同会社北浜経営事務所 代表社員 中尾 博一さん

現在活躍されている当協会会員も、駆け出し時代は様々な苦勞をされてきました。今だから話せるエピソードも織り交ぜながら、そうした苦勞話や飛躍のきっかけ、後進へのアドバイスなどを広報委員が伺います。第8回目は、2013年に診断士登録をされ、2018年4月に法人を設立された中尾博一さんです。

一まず始めに、中小企業診断士の資格を取得したきっかけを教えてください。

私が最初にこの資格の名称を知ったのは、高校生の頃です。教室に「資格ガイド」の様な本が置いてあり、そこに紹介されていました。各資格の概要や、難易度と期待できる収入が何段階かで評価されている、という内容でした。その中で、弁護士や会計士より比較的難易度が低いにもかかわらず、収入の期待値は高いと評価されており、「狙い目だ」というのが診断士資格への最初の印象です。

大学卒業後、幾つかの企業に就職しましたが、常に転職を意識している、という状態が長く続きました。資格取得の直接のきっかけは、サラリーマン時代の転職願望ということになります。ところが、資格取得後、診断士仲間との交流を通じて独立診断士の活動に触れる機会が増える中で、独立を考えるようになりました。両親ともにシンクタンク出身で、父はその後経営コンサルタントを業としているという環境に育ったことも一因かも知れません。

一独立されて5年目ですが、創業当時はどのような状況でしたか？

独立当初は、実務補習でご指導を受けた先生のお手伝いをさせていただきました。事業再生支援に取り組みたいとの思いがあったため、その方面の仕事を多く手がけていらっしゃるその先生に独立を報告し、幾つかの案件に関与しました。先生の下での数ヶ月間で、かなり良い経験を積むことが出来た反面、他のプロコンの先生や公的機関等とのネットワークづくりを怠っていました。仕事量も収入も不十分で、不安一杯の状態でした。

一どのように乗り越えられたのでしょうか？

やはり多くの診断士の話を書く機会が必要と考え、独立後足が遠のいていた各種診断士の集まりに積極的に顔を出すように心掛けました。その中で奨められた大阪中小企業診断士会に入会しました。幸いなことに、ある理事の方と薄いながらもご縁がつながっており、入会を報告するとすぐさま運営委員を拝命しました。その活動を通じ、プロコンの先輩方からお声がけやご紹介を頂くことが出来るようになり、独立2年目にはそこそこ食べていける診断士になることが出来ました。

一お仕事をする上で心掛けていることはありますか？

当たり前のことですが、相手の立場にたって徹底的に考えることを一番に心掛けています。

また、コンサルタントの本質は何か、自分の仕事の存在価値はどこにあるかを忘れないようにも心掛けています。この点は、アウトプットを書面で提出する仕事の場合に忘れがちであるので、気を付けています。

一独立診断士として成功するには、何が必要ですか？

私はまだ成功者ではありませんが、独立5年目としては恵まれているほうでしょうか。これは、協会等の活動に積極的に参加し、その中でどのような仕事をするのか、を認知してもらえたことが大きいと思います。

また当たり前のことですが、顧客との信頼関係は重要です。経営者の耳に痛いとも言える関係づくりが必要でしょう。

一今後、ご自身のビジネスで何かお考えのことはありますか？

この5月から、私を含め6人の独立診断士で、同じ事務所を共有して仕事をしています。うち3名は兵庫県中小企業診断士協会にも所属しています。現状でも2~3名のチームで取り組む必要がある仕事が続々と出てきています。今後は、より大きな規模の仕事を、この仲間でごこなせる様にしたいと考えています。

一最後に駆け出し中の診断士にメッセージを頂けますでしょうか？

基本的には、診断士としての経験年数がそれほど重要であるとは考えていません。経験不足を補うために、何が出来るかを考えることが重要だと思います。

プロ野球と同じで、ルーキーが中堅・ベテランより良い仕事をする事も十分に可能な世界です。

臆することなく、より難しい仕事にチャレンジして欲しいと思います。

(インタビューー 広報委員会 逢坂なつ紀)

委員会報告 6月～9月

● 総務委員会

委員会開催日	主な議題
6月12日(火)	総会・懇親会の反省と改善、新入会員歓迎会・会員交流会について 理論政策更新研修、経営診断実務研修について
7月10日(火)	新入会員歓迎会・会員交流会の反省と改善について 理論政策更新研修、経営診断実務研修について
8月7日(火)	理論政策更新研修、経営診断実務研修について 新年会について
9月11日(火)	理論政策更新研修運営、経営診断実務研修について 新年会について
【事業報告】 新入会員歓迎会・会員交流会を実施、理論政策更新研修を2回実施しました。 経営診断実務研修が進行中です。	

● 広報委員会

委員会開催日	主な議題
6月11日(月)	国際フロンティア産業メッセ出展等について
7月11日(水)	診断ひょうご10月号企画、国際フロンティア産業メッセ出展等について
9月11日(火)	国際フロンティア産業メッセ出展総括、診断ひょうご10月号校閲等
【事業報告】 皆様方のご協力のおかげで、4回目となる「国際フロンティア産業メッセ」への出展を無事終えることができました。毎年新しい企画にご協力いただきありがとうございます。	

● 会員研修委員会

委員会開催日	主な議題
6月25日(月)	スキルアップセミナーの準備状況の確認、調査研究事業の進捗状況の確認
7月23日(月)	スキルアップセミナーの準備状況の確認、調査研究事業の進捗状況の確認、「中小企業診断士の日」のイベントの開催準備
8月27日(月)	スキルアップセミナーの準備状況の確認、調査研究事業の進捗状況の確認、「中小企業診断士の日」のイベントの開催準備、日銀セミナーの開催準備
【事業報告】 スキルアップセミナーについては、毎回、数多くの方にご参加いただいています。 今年は新たな試みとして、「中小企業診断士の日」のイベントを、11月3日に開催いたします。ご期待ください。	

● 受託開発委員会

委員会開催日	主な議題
6月13日(水)	受託開発委員会会議開催/年度末受託実績予測について
8月8日(水)	受託開発委員会会議開催/年度末受託実績予測について
【事業報告】 会員各位のご協力により平成30年8月8日現在での契約金額は950万円となっています。また、各委員からの報告により年度末受託予想額は6,000万円強となっています。特に受託金額が高いのは、経営力評価700万円強、商店街高度化1,000万円、保証協会専門家派遣3,000万円となっており、主な受託案件となっています。	

ニュース

NEWS

■ 平成30年度 新入会員歓迎会・会員交流会・退任理事歡送会を開催



6月23日、ザ マーカススクエア 神戸「ザ ボールルーム ウェスト」において、本年度の新入会員を招き会員との交流会を開催しました。交流会では、新しく当協会に参加された会員一人ひとりのご挨拶、並びに協会の委員会、研究会の代表がそれぞれの活動内容を紹介しました。

また、当日は昨年度を以て理事を退任する会員に対する労いも兼ねており、退任理事にもご挨拶いただきました。

■ 平成30年度 理論政策更新研修を実施

本年度の理論政策更新研修(前期・後期)が、それぞれ8月24日、9月15日、神戸市産業振興センター「ハーバーホール」にて実施されました。特に、前期の開催日8月24日は、前日、大型の台風20号が近畿圏を襲い、開催が危ぶまれました



が、一転翌日は天候にも恵まれ予定通り実施されました。

■ スキルアップセミナー 好評開催中

本年度のスキルアップセミナーが6月30日の第1回「経営改善計画作成支援における実現可能性の高い係数計画の作り方」を皮切りに、好評開催されています。各テーマは、協会の関心の高いもの、実践的でタイムリーな需要に応えられるものが選ばれ、分かりやすく丁寧な解説に評価が集まっています。今後も引き続き開催されますので、ぜひご参加ください。



■ 平成30年度経営診断実務研修を実施

去る9月1日平成30年度経営診断実務研修の開講式が行なわれました。開講にあたり、高槻副会長から「ポイント取得だけでなく、スキルアップにつながるよう努めてほしい」との挨拶がありました。本年度の受講者は9名、参加への意気込みが感じられる開講式となりました。

協会だより

平成30年度の調査研究事業は、「地域経済の自立的循環に資する地域商業活性化について」をテーマに、地域商業が抱える課題とその対策および支援のあり方、方向性について県内の商店街や商業施設にご協力をいただきながら進めております。長年にわたりさまざまな支援策が講じられてきたにもかかわらず、地域商業は、一部を除き疲弊の一途を辿っているのが現状です。地域創生が叫ばれる中で、地域経済の循環器としての役割を果たすべき地域商業の疲弊は看過できず、あらためてその支援のあり方と方向性を見直すことは中小企業診断士の大きな役割の一つであると考えます。今回の事業では、空き店舗問題に集約、内包される本質的な問題・課題を明確にすることを足掛かりとして、望ましい地域商業の支援のあり方や方向性を見出すことを目標としています。事業の結果が今後の地域商業支援の一助になれば幸いです。

(平成30年度調査研究事業 メンバー:木之下 尚令)



今後の予定

セミナー

スキルアップセミナー(会員研修委員会主催)

日 時	会 場	テ ー マ	講 師
10月20日(土) 13:30~16:30	神戸市産業振興センター 801号室	第4回「事業承継の実務において絶対に押さえておくべき10箇条」	北村 真一 弁護士
11月24日(土) 13:30~16:30		第5回「副業標準時代の企業内診断士のあり方」	
12月 8日(土) 13:30~16:30		第6回「経営改善計画作成支援における実現可能性の高い計数計画の作り方」 ※6月30日開催と同じ内容	西口延良 中小企業診断士

※スキルアップセミナーは7月~翌年1月の間で全7回の開催を予定しています。 連絡先:代表・伊藤 康雄 ito@ocsc.biz

協会行事

日 時	予 定	主催・場所	日 時	予 定	主催・場所
11月3日(土) 13:30~17:30	「中小企業診断士の日」 セミナー	神戸市産業振興センター 901号室	1月19日(土) 17:00~19:00	新年会	ザ マーカスクエア 神戸

研究会スケジュール

問い合わせ先: 078(362)6000

● 診断技術向上研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月11日(木)	神戸市産業振興 センター802号室	事例研究 (生産の現場から②)	玉島 剛氏
11月 8日(木)		事例研究 (製品の付加価値向上①)	

※開催日: 原則第2木曜日 時間: 18:30~20:30
※連絡先: 代表 楠田 貴康(くすだ たかやす) tkusuda2002@gmail.com

● ひょうごオンリーワン経営研究会(HOO)

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
11月20日(火) 18:30~20:30	神戸市勤労会館 404号室	「中小企業の事業承継・ M&A講座」(第3回)	高橋 秀仁氏 (アシスト2代目)

代表 福島 繁
※連絡先: 中島 和樹 nrj21477@nifty.com : 原則は奇数月第3火曜日

● プロコンスキル研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
11月12日(月)	神戸市産業振興センター 905号室	支援事例等による 実践スキルの研鑽	加藤 慎祐氏 木之下 尚令氏

開催日は原則、奇数月の第2月曜日 時間: 18:30~20:30
※連絡先: 玉島 剛 g.tamaso@gmail.com
(参加はプロコン育成塾修了者と講師に限ります)

● ものづくり&SCM研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月13日(土)	トヨタL&F	現地施設見学	トヨタL&F
11月 3日(土)	兵庫県民会館	①「未来の年表」 ②未定	①玉田 一己氏 ②指尾 成俊氏

※開催日は原則、第1土曜日 時間: 14:30~17:00(1、5、8、12月除く)
※連絡先: 三村 光昭 QZE02753@nifty.com

● 地域産業活性化研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月3日(水)	神戸市産業振興センター 902号室	丹波市インバウンドに 関する調査・研究	研究会員 全員
11月7日(水)	神戸市産業振興センター 804号室		
12月5日(水)	神戸市産業振興センター 804号室		

※開催日: 原則第1水曜日 時間: 18:30~20:30
※連絡先: 代表 大場 一正 kohba@alles.or.jp ※今年度の募集は締め切りました。

● 青年部会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月1日(月)	神戸市 勤労会館	①「記者の心をつかむプレスリリースの作り方」 ②「コンサルファームのお仕事」	①井上 陽介氏 ②後藤 雅明氏
11月5日(月)		①「中小企業のワーク・ライフ・バランス」 ②「経営力を強化する会計」	①岡村恵望子氏 ②天谷 浩人氏

※開催日: 原則、第1月曜日 時間: 19:00~21:00
※参加資格: 49歳以下の支部会員
※連絡先: 東松 英司 e.toumatsu.7m@gmail.com

● HRM研究会(Human Resource Management 人的資源管理)

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月2日(火) 11月6日(火)	兵庫県民会館	調査研究に関して	畑 英樹氏

企業内診断士の活動内容をモデル化しアンケートや各種ヒアリングを実施し
分析を行い、各方面からの協力を得ながら研究活動を実施しています
※開催時間: 19:00~21:00
上記日程以外にも、大学や関係機関との研究交流などを随時実施
※連絡先: 畑 英樹 srhataz@yahoo.co.jp

編集後記

国際フロンティア産業メッセ2018では41の企業・団体取材し、当協会のフェイスブックページで紹介しました。閲覧数は1万を超えました。これからも役立つ情報、楽しい情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。フェイスブックページは右のQRコードからどうぞ。(芳)

